

International Association of Buddhist Culture
 国際佛教文化協会 第6回 IABC 友の会 ツアーの記録

ベルギー、アントワープ — 第13回ヨーロッパ真宗会議
 ポーランド、ワルシャワ — 同朋との交流
 アウシュヴィッツ — 惨劇の収容所・文化遺産都市見学
 2004,8,25 — 9,6 (13日間)



慈光寺での朝の勤行 04, 8, 27



導師をつとめた
 ファン・パライ師 04, 8, 27



高田慈昭氏・ブザンソン夫妻 04, 8, 26



アドリアン・ペール博士の慈光寺の前 04, 8, 27

IABCヨーロッパの旅

第六回IABC友の会

団長 高田慈昭

ヨーロッパの真宗会議は二度目の参加でした。ベルギーのアントワープ（慈光寺とホテル会議室）の会場に本願寺の新門様を迎え帰敬式も行われました。

「念仏の世俗化と原理主義の超克」というテーマで研究発表や討議が交わされ、私共は日本語の通訳を通してその要点を聞きました。このテーマは現代の日本の課題でもあります。

その晩、この街のレストランで新門様をかこんでヨーロッパ真宗教徒の代表と夕食パーティが催され、ベルギーのファン・パライ夫妻、スイスのデュコール師・ブザンソン師、ドイツのモザー師、オーストリアのハンネロレ・フロイント師、ルーマニアのアドリアン・クイルレア師、ドイツの恵光寺の青山師夫妻、等、なごやかな交歓会でありました。会話は英語をはじめドイツ語、オランダ語、日本語が入りまじって楽しく念仏弘通の今未来像について語り合いました。

六人部屋のコンパートメントの国際列車（アントワープ〜アムステルダム）での歓談、田園風景を楽しむ、又飛行機に乗ってポーランドのワルシャワへ行きました。



昼食会にて 新門さまと 04. 8. 27

アグネス・エンジエスカ師の指導による二十数人の真宗門徒と会合し、ホテルの会議室で本尊を安置し、いっしょに正信偈六首引の勤行を日本語で唱和したあと、ポーランド語で訳された正信偈のおつとめを聞いて感動しました。みなさん正坐して門徒式章をかけ合掌念仏称名をつづけられる真摯な姿勢にはおどろき私共も襟を正して正坐し合掌念仏しました。

キリスト教の伝統文化（ローマ教王パウロ二世はこの国の出身）の真只中、異文化の中で仏法に帰依し称名念仏されるポーランドの真宗教徒の凛々しい尊容をみて涙がこぼれました。親鸞聖人のみ教えが世界普遍の宗教として展開しつつある現況に誇りと喜びを感じました。みなさんアグネス・エンジエスカ師の著書を読んで仏教に帰入されたとお話でした。

ワルシャワはシヨパンの出身地として有名で郊外の森林公園の中にあるシヨパンの生家を訪れ、私たちのための演奏を、夜は水上宮殿内の演奏会でシヨパンのポロネーズを聴き音楽の鑑賞にひたりました。

ワルシャワから南へ約三百キロ旧城廓のある美しいクラコフ市街を見学し、郊外にのこっている有名なアウシュヴィッツの遺跡を見学しました。

第二次大戦中、ナチスがユダヤ人等を強制収容し、百数十万の人々を虐殺した悲惨な収容所。二十八棟の赤レンガの建物の中には、今も山のようなユダヤ人達のクツやカバンや頭髮等がのこされ、ガス室殺害の部屋で思わず経文を口誦さんでおりました。

こんな残酷悲惨な集団虐殺事件がどうして引き起こされたのか、民族部族の偏見憎悪とはいいながらこれほどの非道無残な行為をする人間の狂乱心や邪見をまのあたりにみて戦慄しました。

ロシアのサンクトペテルブルグは二度目の訪問でしたが、共産国家が崩壊し自由主義市場経済の体制に変わって市内も活況を呈し車は渋滞して混乱状態というところ。帝政時代の教会や五候貴族の宮殿などが修復され、その豪華絢爛ぶりには瞠目せざるをえませんでした。世界からの観光資源の対象になっていました。ロシア革命が発生した理由もうなずけるものがありました。

第十三回ヨーロッパ真宗会議出席

世界文化遺産都市見学の旅
再度御縁を頂いて

榎並志女子



ポーランド真宗教会と 04. 8. 31 ワルシャワ

四年前に第十一回ヨーロッパ真宗会議に同行させて頂き、又今度高田先生よりお声がかかり是非参加させて頂きたいと、一番に申し込みました。二度目の参加となりました。十三日の長旅です。皆様に御迷惑にならない様頑張らねばと思っていました。何かとお世話になり本当に有難うございました。先ずアムステルダムからの新幹線到着の駅(アントワープの手前)でのトランクを階段で持つて降りる大仕事。今後どうなるかと大いに心配しました。宮里さんが持つて下さらなかつたら、荷物と一緒に落ちた事でしょう。ホテル到着はベルギー王国コリンシアです。第一日目の朝、真宗会議の開会式の勤行も迎えるバスが途中事故の巻き添えで遅くなり、団長さんと島田先生方がタクシーで先に出発というハプニングもありました。午前中の会場ホテルキャンパニーレへ直行。モニターによる研究会に参加しました。

東欧社会においての宗教は深い精神性が尚一層大切な事を発表されました。ニューヨークプレスセンターのキリスト教的破壊やアフガニスタンでのバーミヤンの仏像の破壊など原理主義社会の反発、反抗ではないだろうかと議論されました。質問では哲学的19世紀ヘーゲルからニーチェ迄、宗教的感情から生まれたものだと考えられる。文も資料も東欧宗教では限られていた

うとの事です。



モニター参加、解説 04. 8. 27

会議は午前中だけで私達は昼食会場マルクト広場を横切り「QUINTENMATSIS」という市街地の路地裏にある古いレストラン迄徒歩で(途中からの)出発でした。添乗員坂根さんの資料によると、日本人スタッフや、日本語メニユーもあったとか、沢山のビールの種類の中から地ビールを頂きました。

昼食後マルクト広場の市庁舎で貿易を行っている国々の旗がかかげられ上段中央部にはJAPANも発見しました。

次にはノートルダム大聖堂見学です。大きな明るい印象の白い教会です。1350年から1520年迄、170年という長い

歳月を費やしネーデルランド(ベルギー北部とオランダを合わせた地域)で一番大きなゴシック教会が建てられたそうです。この大聖堂も長い歴史の中ではさまざまな災難に見舞われ建築当時の姿をそのまま留めているわけではなく、1533年には火事により大部分が焼失し、又1566年と1581年の偶像破壊活動の際にはかなりのダメージを受け、フランス革命軍がこの一帯を征服した1794年にも又々ひどく略奪などいろいろの憂き目に遭いましたが、大聖堂にはこの様な逆境も聖母マリアの信仰により常に乗り越えてきたと記されています。又、アントワープ出身のバロック芸術家ルーベンスのキリストの昇架、聖母被昇天、キリストの復活とキリストの降架など芸術的説教壇や告解所等信仰の対象と思われる数々の遺産がこの大聖堂の復活に民衆の力となって支え続けているのでしょう。御縁を頂けたと喜んでおりますが二十七日のベルギー王国は1005万人の人口の中から90%はカトリック教、キリスト教少数の中から浄土真宗に皈依される念仏者の方々との出会いも大きな喜びでした。

Marine Stubbe Mrs 論題?は、十字の御名号「帰命尽十方無碍光如来」や天親菩薩の論註、浄土論と曇鸞の考えはどんなだったか方便、法性、四十八願と難しい宗教講座で訳しにくいと寺本さんもおっしゃっ

ていましたが、すべては、原因と縁によって始まるものでさかのぼって結ばれていく我々仏性もそうだったのかと何か計りえない縁(えにし)のお働きをつくづく喜ばせて頂きました。仏教カウンセリングで心理の勉強で独自のグループを活動されているとの事でした。

三十一日のワルシャワ、ポーランド真宗グループとの交流会でも食卓のグループの智城さん、是真さんも精神科医であるとの事です。日本留学で真宗との出会いを頂いたと智城さんはおっしゃっていました。又、隣りに座られた得生さんは御経を読まれる様になれば自然と体が揺れ動くのも何か精神的な信仰からだろうと感じました。グループの中でドライバーを勤められ、ハンドルを握られるのかお酒は控えておられました。もう一人の大きな若い方は本当に宇宙のUFOを想う様な融法さんです。澄んだ美しい目をした方でこの様に若い方々の御縁で会食させて頂き、このすばらしい喜びは一生の想い出となる尊い旅の一日となりました。本当に有難うございました。

二回目の参加

IABC友の会発足以来

辻 貞子

私が参加をさせていたゞいたのは、二〇〇

〇年の年、早や四年目にして二回目いつも感動いたします旅行



新門さまスピーチ 04, 8, 26

此の度のポーランド アウシュヴィッツ サンクトペテルブルグ市のエルミタージュ美術館 ピョートル大帝の離宮として有名な夏の宮殿 いつまでも脳裏からはなれずいまだ興奮さめやらず・・・今しばらく余韻にひたりながら日々を送りたいと思います。皆々様お世話になり紙面をおかりしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。二年先も参加出来ます様に日々精進いたします。

ヨーロッパ真宗会議に参加して

岡本 本子



ポーランド 勤行の様子 04, 8, 30

村石アグネス先生には築地本願寺で、月一度、第四土曜日に開かれている英語法座の時お会いして、以前から存じあげていました。ポーランドのご出身と聞いていました。本山で坊守式を受けた時も一緒に、お得度もされている熱心な方だと思っておりました。お会いする時はいつも笑顔でご法話はパワフルです。

「今回のヨーロッパ真宗会議にはアグネス先生もご出席されるのでしょうかね」そんな

会話を夫として訪れた会場でお会いしたのはお嬢さんのジョアンさんでした。お母様のアグネス先生はこの会議が終わった後、新門さまによる帰敬式がワルシヤワで執り行われるので、準備を整えながらそちらで待つていらっしやるとのことでした。私たち一行は日程が合わず帰敬式には参列できませんでしたが、交流会で皆さんとお会いすることができました。

交流会の会場には、お名号がご安置され、帰敬式を受けた二三名の方が揃いの作務衣を着、頂いたばかりのご法名を胸に付けて私たちを迎えてくださいました。ポーランド流の雅楽が演奏され二カ国のお同行と一緒に声を合わせて正信偈をお勤めました。始めはちよつと違つた雰囲気には違和感を覚えましたが次第に感動へと変わつていきました。日本語に続いてポーランド語で正信偈が勤められご和讃が拝読されました。アグネス先生訳。先生のご挨拶の時はジョアンさんが巧みな日本語で通訳をつとめ、先生を助けておられました。(ジョアンさんはワルシヤワ大学の学生で僧侶でもありません「黒の布抱もひとつのファッシュョンに見えるようなとても美しいお嬢さんです。ポーランドには美しい人が多いのでしょうか。私が密かに名付けたワルシヤワのトム・クルーズはきれいな声で導師をされていました」)

食事の席で皆さんにご聴聞のきっかけを尋ねてみますと、本屋さんでアグネス先生の書かれた本に出会ったのがご縁と言うことでした。



新門さまとヨーロッパのメンバー 04, 8, 27

アグネス先生、ごめんなさい。先生が遠く離れた日本とポーランドでこんなに一生涯懸命ご布教されてお念仏の種をまき、お育てしていただく事を良く知りませんでした。私も襟を正してご聴聞をし、また坊守としての自分を見つめ直さなくてはいけないと言ひ聞かせながら帰つてきました。この出合いを教区の婦人会でもお話ししてダーナ募金の一部をヨーロッパ寺院の活動費として援助出来ないか提言してみたいと

思います。

初めてのヨーロッパ旅行で素晴らしい世界遺産も沢山見せていただきました。楽しい思い出がいっぱい出来ました。この旅行を企画してご苦労くださった皆様に心よりお礼申し上げます。はじめてお会いしたご住職様、坊守さん、お同行の方々お世話になりました。ありがとうございました。

御縁の旅

宮里 優子



ポーランド 勤行の様子 04, 8, 30

「ヨーロッパ真宗会議」 そんな大それた所へいつていいものかしら・・・メンバー

ーは 常連の方ばかりのようだし・・・でも「だいじょうぶ・だいじょうぶ、お念仏といっしょだからね。」そんな声が聞こえて来るような。

そして ベルギーのアントワープ 真宗会議の会場では 意見発表が行われている。モニターを見ながら日本語のまとめを聴く。内容は深く、ヨーロッパの方々の熱い、ストイックなものが伝わって来る 難しくても その場の雰囲気だけでも味わおうと思う。

翌日慈光寺で朝のおつとめに会わせていただく。ヨーロッパの阿弥陀様にお出会えた感慨で 胸がいっぱいになる。私がここにいる不思議 ここまで阿弥陀様がいらつしゃって 私を連れて来て下さったんだと。

その日も熱心な意見発表が続き、ずっとお念仏の中に浸っているようだった。

ポーランドのサンガの方々とのお出会いは 強烈な印象として残った。ポーランド流と言おうか 始まりは密教の秘儀めいて異和感を覚えた。しかし 日本語でいっしょに お正信偈のおつとめをした時は もう全体が一つになって感動の中にいた 真宗歌と恩徳讃の大合唱が心に響く。

食事のテーブルを囲みながら 英語が話せないもどかしさ しかしおたがい通じ合

う。和やかな優しい空気を感じたのは私だけだったろうか。帰敬式を受けた清恵ちゃんが大人になる頃には、ポーランドにもお寺が建っていればいいね その時はいっしょに
ナーモアミタバ ナーモアミダ
ナーモアミタバ ナーモアミダ・・・
歌えたらいいね。



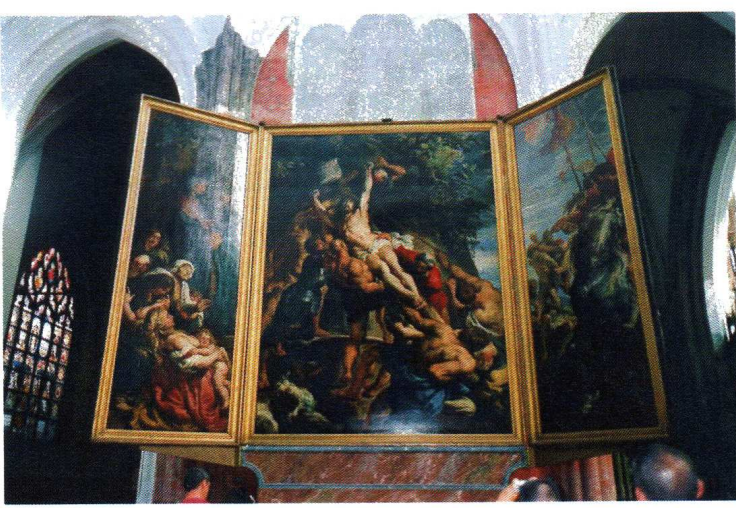
竹内、岡本、宮里、辻、藤谷、川勝、榎波さん

いつかヨーロッパの真宗寺院を訪ねみたいー 高田先生のおはなしを聞きたび思っていた事がこんな形で実現するなんて 本心に御縁の旅であった 多くの方々にお世話になった

ガイドの坂根さんにメンバーの一人お一人に機会を与えて下さった高田先生 綿密な準備をして下さった島田先生 同室の岡本さん、そして快く背中を押してくれた住職にも感謝です。ありがとうございます。 合掌

ポーランドの三日間

石牟禮トシ子



教会 ルーベンスの絵 04, 8, 28

今回も浄教寺様より、I A B C 友の会ツアーのお誘いをいただき、個人では行けな

い所なのですぐに参加をきめさせていただきました。

私達は、ポーランドの三日間を担当する事になりました。ポーランドの主都はワルシャワです。古都クラコフを初め、世界遺産ビエイリチカ岩塩採掘坑や、アウシュヴィッツ強制収容所が有ります。

○ワジエンキ公園

面積は七六万m²で、ヨーロッパで最も美しい公園として知られています。又ワルシャワ市民の憩いの場となっています。公園の西側には、バラ庭園に囲まれた所にフレデリック・ショパンの像が有ります。バルバカン旧市街市場広場の北にあつて、レンガで造られた円形の砦で十六世紀頃に建てられたと云われています。現在の建物は第二次世界大戦後に復元されたもので、中世的な装いが再現されているので昔の面影を偲ぶ事が出来ます。ノーベル賞二度受賞したキユーリー夫人の生家は現在博物館になっています。

○聖十字架教会

一八四九年、パリで亡くなったショパンの心臓が教会内部の左側の柱に納められています。

○丘の上のヴァヴェル城

ヴィスワ川沿いのヴァヴェル丘にある城は二〇一六世紀まで、ポーランド王国の歴代の王が住んでいた場所で、歴史、文化の中心



ワルシャワの町 石牟礼・島田・地引さん 04. 8. 28

地として栄えた所です。ジグムントの鐘など歴史的建築物が多く残されています。

大聖堂は歴代王の戴冠式や、葬儀が行われた由緒ある寺院です。十一世紀初めにロマネスク様式で建てられたものです。

なかでも聖堂の南側ある、十六世紀に建てられた金色屋根のジグムント礼拝堂は最もすばらしい、ルネッサンス様式と云われています。聖堂内には、歴代の王(四十一人)や偉大な僧侶が地下墓に眠っています。

クラコフへの列車は六人掛の個室でした。クラコフは世界遺産です。十一世紀から十七世紀、ワルシャワ遷都さ

れるまでの約六百年間、首都として栄えたポーランド王国の歴史の中心地で、第二次世界大戦の戦火を免れ今も中世の街並がそのまま残されている所です。

○中央市場広場

クラコフは旧市街の中心地で、一二五七年に造られた二百米四方の広場で、中世の広場としては、ヨーロッパ最大と云われています。広場の周囲には旧市庁舎や、マリア教会など歴史的建物が立ち並ぶ中世の面影が残る、すてきな町です。ポーランドの商業の中心地でもありました。この旧市街市場広場を中心とした旧市街地一帯は、ワルシャワ歴史地区として世界文化遺産に登録されています。

○ヨーロッパ最古の岩塩採掘坑

クラコフ郊外の町ヴィエイリチカには、七百年以上歴史を誇る地底岩塩採掘坑があります。世界遺産として登録されています。採掘坑は地下六四米〜三二七米の所に九層あります。地下通路は地下一二五米まで一般に公開されていて、当時の採掘の様子を再現した人形や岩塩で作った礼拝堂や彫刻など見る事が出来ます。最大の見どころは、地下一〇一米に有る聖キング礼拝堂です。天上、壁、床、祭壇すべてが塩で作られているのも、おどろきです。王国の財源の三分の一の利益をもたらしたそうです。今は地下六〇米〜百米の所に郵便局、売店、

みやげ物店（調理用の塩や岩塩のランプなどが売られています） レストランも出来ています。

○アウシュヴィツ強制収容所

面積約二十万㎡、二八棟の囚人棟が残る収容所です、犠牲となった人々の多くの遺品や、囚人生活の様子、当時の写真や資料、犠牲となった各国別の展示など見学することが出来ました。なかでも一九四一年に毒薬、チクロンB（毒ガス一つで四百人殺せる）を使って集団虐殺の実験が行われた十一号棟はほぼ昔の姿のまま残っていました。地下にある収容所内の独房を見れば、当時の様子を生々しく見学出来ました。髪の毛、トランク、目鏡、ブラシ、ナベ等に子供達の写真や、洋服、靴、オシャブリを見ると涙が出ました。ガス室、焼却炉など、まともに見られない光景でした。有刺鉄線が張り巡らされたフェンスには六千ボルトの電気が通っていたそうです。銃殺が行われた、一〇号棟と一一号棟の間に有る「死の壁」と云うのも見学しました。

○ビルケナウ

第二アウシュヴィツ強制収容所

アウシュヴィツ強制収容所から三km離れた場所に建設された第二強制収容所です。面積は一七五万㎡・三百棟以上のバラックが建てられ、大量虐殺が行われた所です。

鉄道の引き込み線や、中央衛兵所の塔、囚人棟の一部が残されているだけでした。

旅行中は、色々なハブニングにも合い、勉強にもなる、楽しい旅行でした。皆様には大変お世話になりました事、厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

ポーランド

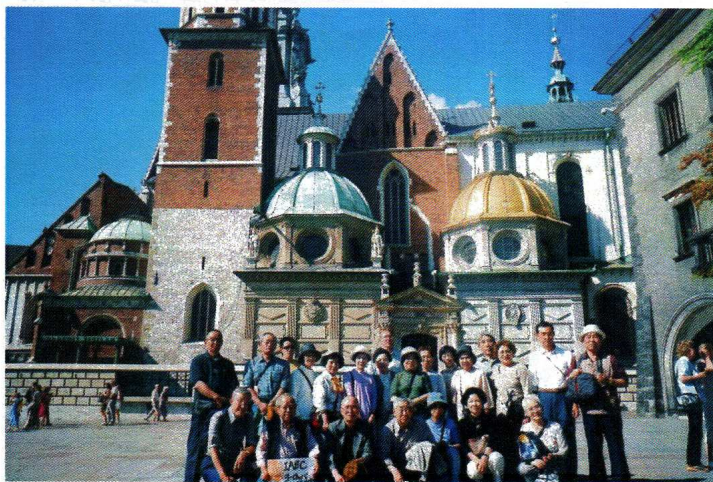
すばらしい町クラコフとヴェリチカ岩塩坑
地引 露

この度I A B C友の会ツアーの旅に御縁を頂き八月二十五日関西空港より出発アムステルダムを経てアントワープでの真宗会議に参加致しました。静かな町並の会場ホテルには各地より参加の信者の方々の浄土真宗への信仰論議の発表を拝聴（通訳付）致しました。佛教は何時そばにあり（何となく）分った様な感じにいる自分に真剣な気迫を突きつけられた思いで感じ入りました。

翌朝には市街の住宅の一角にある慈光寺にての朝のお勤めに参加させて戴き皆様の熱心なお姿にも接しました。

ベルギーからポーランドの観光を終えてワルシャワ西駅より列車に乗り南へ三百km余りのクラコフに向いました。列車は昔なつ

かしい六人掛けの個室で車窓の田園風景を楽しみ乍ら二時間余りでクラコフ駅に到着。駅を出るとそこは町の中で、バスに乗ると市電の走る道でその横側をバスは走り旧市街に入って行きます。



ヴァヴェル城にて 04. 8. 29

十一世紀前半にはポーランドの首都が置かれていた町との事、緑の木々も多く美しい公園をぬけた処ヴァヴェル城が目の前に広がりました。美しい建物でポーランド王の居城として歴代の王が住み続け増改築が行なわれて十六世紀はポーランドの黄金時代であったとの事です。金のドームの礼拝堂は美しく輝き城内に入ると各部屋は壁一杯

に大きなタベス^トリーが掛けられています。十六世紀以降各王はタベス^トリーの収集をし今も王宮博物館に飾ってあるとの事です。栄えた中世の王宮時代がしのばれる美しいお城でありました。



クラコフ 民族舞踏 04, 8, 30

翌朝バスに乗つてのどかな景色を見ながら南東十三km程の処ヴェリチカ岩塩坑の見学に向いました。採掘坑の層は地下六四メートルの処第一層から第九層まで地下通路約二百五〇kmあると云ふ。階段を三百段降りると云ふ事で足がすくみましたが、小さな工事用のエレベーターで少し降りそこから階段を降りて行くと約二百五十km程の迷路の様な道を歩く事となりました。坑内はひ

んやり涼しく矢印の方向に進むと広い部屋に入り王様の像や採掘工夫の像があり、天上にはシャンデリアもあり、塩の結晶で作つてあると聞く「おとぎの世界」に入った様な驚きである。尚進むと巨大な礼拝堂もある。色々な彫刻がある。中世のヨーロッパの塩坑。人馬共々に大へんな事で地下坑にて礼拝堂で祈り乍らの作業。人力の結晶でヴェリチカの岩塩を掘り続けた岩塩の販売により王国は財源に大きな利益をもたらしたの事です。



ヴェリチカ岩塩坑内の礼拝所 04, 8, 30

一九七八年に世界遺産に記入されています。自然と人間の力で創られた作品の様で驚きと深い感銘を受けました。

八月三十一日

翌日の午前中は自由時間との事、馬車に乗って旧市街を散策。清々しい空気の白い馬の美しい馬車でパカパカと中世の石畳の町を行く貴婦人と重ね合わせたりして・・・楽しいひと時で御座いました。

お晝前にバスにてホテルを出発ポーランドの田園風景の道を走り続けてワルシャワに戻つて参りました。

ポーランドから来られたサンガの皆様とホテルにて交流会。御一緒にお経をあげてお努めを致しました。お経が美しくリズムカでいつまでも続きます。

夕食を各テーブルで御一緒に何となく気持ちを通じ合わせられた様な気分でした。明日はワルシャワともお別れでロシアへの移動となります。

合掌

ポーランドを訪ねて

島田孝子

四年ぶり三回目、IABC友の会のヨーロッパの旅に参加させていただいた。

すばらしい景色と、お念仏の同朋、絵画や音楽にふれて全てが感動の旅であった。

真宗会議での皆さんの貴重なおことばを胸に、四日目一八月二十八日。

アンナさんの御案内でワジュンキ公園に

出かけた。ここはヨーロッパで最も美しいといわれている公園の一つ、浜松市に同じものがあるというしだれ柳の下のシヨパンの銅像の前で記念撮影。ここでの野外コンサートはどんなにか素晴らしいことだろう。耳をすますとシヨパンの調べがきこえてくるようであった。そのあとシヨパンの心臓がうめられているという聖十字架教会へ立ち寄り、徒歩でゆっくりと旧市街をまわった。

晴天のもと、幸せそうな結婚式のカップルに会い、ほのぼのとした気分になった。



結婚式の二人

シヨパンの生家では、ガイドのアンナさんのワルシャワ大学時代の友人であるエバオソフスカさんが、非常に力づよいタッチで“革命のエチュード”と“英雄ホロネーズ”をわたくしたちのグループのために弾いて下さった。

シヨパンが産声をあげた部屋には絶えずお花が飾られているという。その日もきれいな沢山のお花が私達を迎えてくれた。



シヨパン生家での演奏 04. 8. 28

月夜の水上の宮殿での四十五分間、シヨパンのピアノコンサートは、エバオソフスカさんの先生の演奏であった。余韻にひたり、夜道のそぞろ歩き、幸せいっぱい気分でした。

今日は早や旅に出て五日目・八月二十九日。昨日の水上宮殿でのシヨパンコンサートでの力強くきれいな音色がまだ耳もとに残っているうちにホテルを出発した。

ワルシャワからクラコフへ、列車は六人掛けで、移りかわる外の景色と、たあいな

い雑談を楽しんでゆっくりした時間を持った。広々とした畑や森が近づいた。さすがにポーランドという感じがした。

クラコフの駅にはお昼前についた。ガイドは男性リチャードさん。この町は第二次大戦でも奇蹟的に残ったらしくユネスコ世界文化遺産の第一号。絵のような建物が続いていて、何とか写真に残そうと苦心しました。

丘の上のヴァヴェル城は十一世紀の王の居城であったといわれ、天井の桝目に王や軍人の顔が並んでいて少々びつくりした。

その夜は、伝統舞踊を観察したり、共におどったりして楽しい夕食の会となった。

六日目・八月三十日。

ラディソンサスホテルを出てヴェリチカ岩塩坑へ、地下百三十六メートルの所に、岩塩で出来ているとは思われないシャンデリア、柱、採掘工の像、小人の像、礼拝堂、その他色々な調度品があった。どれも豪華で、目をみはるばかりであった。地上に出てまだまだ夢の中にいるようであった。今私の左手に、その時出会った珍しい色の石の腕輪があつて、見るたびにその時の感激がよみがえる。

午後アウシュヴィツ収容所。想像出来ないようなむごい形で多くの人々の命を、そして人生を奪っていった地・アウシュヴィ

ツツを訪れた。暑い日だった。空は澄みきっていてポプラ並木の美しさがむしろ悲しく目にうつった。



ヴェリチカ岩塩坑の中の礼拝堂にて 04, 8, 30

強制収容所の部屋やガス室、銃殺した石の壁、それから新しい生活を夢見てきた人達のトランクや小さなくつ、大きなくつ、鍋、服、眼鏡、そして髪の毛で作ったという布等々、生活を物語る写真を目にした。涙なくしては見る事が出来ない歴史の中の最大の悲劇のあとに言葉も出なかった。ただ“南無阿弥陀佛”と合掌のうちに帰途についた。私の好きな画家の描いたポプラ並木の絵を今度は別の思いでみることでありましょう。

日本に帰って、
“弥陀成佛のこのかたは
いまに十劫をへたまへり
法身の光輪きはもなく
世の盲冥をてらすなり”の御和讃を
何度も味あわせていただきました。沢山の
方々とおであいを感謝いたして居ります。
本当にありがとうございます。

合掌

ワルシヤワと アウシュヴィッツの思い出

南庄 恵

五回真宗会議に会わせて頂き、そのたびそれぞれの地域での御活躍を見聞しそのご苦労を察すると共に、私共の聞法に対する態度を何時も反省はしていましたが、今回は特に真剣な討論をきくことも出来、ポーランドの方のたからかに正信偈をあげ念仏を称えられる様子を知って驚きました。日本ではなかなかお念仏の声が聞かれないこともありますのに。

又今回の旅で一番心に残ったのはアウシュヴィッツの収監所跡を見たことでした。第二次大戦から六十年近くたってはいますが生々しくそのままの形で残っており、私共

戦争体験者から見るとあの恐ろしい毎日を目のあたりに思い出し、如何にいくさが無駄な事か人のいのちの大切さと共に人の心の恐ろしさをつくづく考えさせられ、二度とこのような悲惨な経験は誰もしてはならないと痛感しました。ロシアでは帝政時代のまばゆい絢爛とした宮殿のいくつかを見て、あれだけの素晴らしいものを後世に残すためにはどの位の人々の涙があつたかを思い、又独裁政治のなごりが街のあちこちに見られその苦難の中で人々は生きて来たのだということを実感しました。



ワジェンキパレス・ショパンの演奏者と

04, 8, 28

ワルシヤワではショパンの美しい音楽を堪能出来て至福の一日でしたが、ショパンの曲もやはりその地の方の思いが演奏に表

れていました。隣国から痛め続けられたポーランドの人々の「革命」や「英雄」は非常に力強さがあり印象深いものがありました。この度は非常に意義のある楽しい旅をさせていただきましたことを皆様方に厚く御礼申し上げます。

ヨーロッパ旅行を終えて

南荘 撰



交流会 04. 8. 31

私がこのヨーロッパ旅行で最も印象に残っているのは、やはりポーランド真宗サンガの人たちとの交流会です。正直なところ、ホテルの一室に入って初めて彼らを見て、彼らのお念仏をきいた時には、何か異様な

感じさせられました。しかしそれは、最初彼らを外から客観的に見て、ただ自分が今まで見たことのない風景にとまどつたのだと思います。正信偈を一緒におつとめすると、彼らとの距離が一気に縮まり、おつとめが終わって彼らと対面すると、その近づいた距離はさらに一層縮まった感じました。彼らの目は平和そのもので、優しさに満ちあふれていたことを、今でもはつきりと覚えていています。

そして夕食の席では、お互いの思いや感じたことを率直にはなしました。「あなた方（私たちグループ）を初めて見た瞬間、昔からの友人のように思えた。」という彼らの言葉がとても印象的でした。国や文化の違いを超えて、親鸞聖人のみ教えや、お念仏を喜ぶ同朋としてつながっているんだということ、肌で感じることできた、ありがたい言葉でありました。そして、最後に恩徳讃や真宗歌を全員で声高らかに歌った感動は、一生忘れられません。

夕食会が終わわり別れを惜しんでいると、突然アグネス先生のアパートに招かれました。アパートに着くと、まず藤谷先生の調声で重誓偈をおつとめし、その後別の部屋で、何と私の調声で讃仏偈をおつとめました。ポーランド真宗サンガの人たちも、みんな無本で元気におつとめしていました。また、彼らの中にはおつとめの後に感激のあまり、



恩徳讃をうたう 04. 8. 31

目に涙を浮かべている人もいました。最後の別れは辛いものでしたが、不思議なことに、きつとまた会えるという確信のようなものがありました。

私がこの旅行で一番嬉しかったのは、こうして異国の地で同じお念仏を喜ぶ人たちと出会えたことです。これは、真宗の御教えが国や文化を問わない、普遍的な真実の教えであるということを実感できた瞬間でもありました。私がかれから僧侶として生きていく糧となる、すばらしい経験をさせていただいたことを、心より感謝いたします。

ヨーロッパ真宗会議と 文化遺産見学に参加して

井野盛夫

旅行の目的であるヨーロッパ真宗会議は、基調講演、各国の活動状況など、発表者の真剣さも加え、とても新鮮で刺激的であった。我国の大学や専門学校では当然扱われてきたテーマであろうが、「世俗化されたヨーロッパ社会に、真宗は何を与えることができるか」は、自分に置き換えてみても重い課題である。ヨーロッパでなくとも、教区壮年会の議題としてもいくらいである。わが身の未熟さから来る恥ずかしさに加え、生涯勉強との自戒と夢が、アントワープの国際会議に参加して得たものであった。



井野、岡本、島田 04. 9. 1

ポーランドは東欧諸国の中で、イラク戦争に軍隊を派遣している親米国である。その地勢は小高い起伏に、どこまでも続く畑、ところどころにある森、しかし川らしいものが見当たらず穏やかである。年間降水量が我国4分の1程度であるということから、川が見当たらないのもうなずける。この土地を隣国ドイツとロシアに占有された時代が長くあり、旅行中接した人や街の雰囲気から愛国心を強く感じたのはそのためではなからうか。今回の旅行参加を決めた理由に、ナチスの収容所アウシュヴィッツの見学がある。当日は雲ひとつなく施設に照り返し、日陰もない収容所での苦勞が推測された。日中野外の重労働を終えて収容所に帰ると、レンガで囲われた部屋に横になるのがせいぜいで、食事も水の様なスープと野球ボール大の菓子パン、肉の切れ端と野草の煮物が1日分としてあてがわれた。



アウシュヴィッツ (死体の野焼き)

こうして衰弱し労働者としての価値が無くなると、ガス室へと生涯を終えた人々の状況をほんの少し知ることができた。明日の命が分らない状況に置かれた収容者等は、夜の明けるのを恐れ、何を考えていたのであろうか。不の連鎖はしかも残酷に加速する人間の本性を、どうしたら改善できるのであろうか知りたい。被災国ポーランドがイラクに派遣している現実、これも国民の選択である。史実としての関心を持つて訪れた自分が、人間の本質的な面を忘れていたことに恥ずかしく、太平洋戦争により弟を失った私として考えさせられる旅であった。



処刑場 04. 8. 30

真宗会議やポーランド真宗サンガの活動状況を拝見して、改めて自分の信仰の浅さ、極め方の甘さを強く感じた。キリスト教の社会で生まれ育ってきた彼らが、東洋で生まれた真宗に辿り着くまでには数少ない機会の中からご縁を捉え、そして積極的に信仰を深めている。こうした努力が数少ない同朋が力を併せていく結果になり、結束が強くなり、一層信仰による絆が固くなっていくように思えた。旅行で見聞したヨーロッパの同朋の姿を門徒推進員として真摯に受け止め、基幹運動に参加する糧として受けとめた貴重なご縁とただかせていただきました。

八月三十一日(七日目) 曇り クラコフ

午前中自由行動。チャルトリキス美術館が所蔵する、世界で有名なレオナルドダヴィンチの「白いテンを抱く貴婦人」を有志が鑑賞。こうした名作がポーランドの地方都市にあることに不思議さを覚えました。良き時代の貴族が資産に任せて収集した見識の高さに驚かされました。

バスにて約三〇〇キロ離れたワルシャワへ向かうが、国道七号線は交互二車線で、追い越しは対向車線側にはみ出すため危険を感じました。まだまだ社会資本が整備されておらず不便でしたが、それだけに自然と古い集落が残っていて、旅行者にとって

は良い思いで作りができたように思います。

夜ホテルにおいてワルシャワ仏教会サンガの皆さんとお勤めをしました。阿弥陀様のご縁により、こうした機会を設けていただいたことに有りがたく感謝しました。妙珠師のもとに二十四名の方々は、日本語とポーランド語訳による読経は驚くほど上手で、一緒に読誦した自分が恥ずかしく感じました。読経はリズムをボンゴ、エレキギター、尺八で整然と調子を取り、普段の正信念仏偈とはひと味違うものでした。これならば若者にも馴染みやすいし、明るい感じにも取れ、将来の方向にも思いましたが、伝統を重んずる我が国では、相容れない人が多いのではないのでしょうか。遠く離れた欧州の地で、同朋として共々真宗のみ教えを深く味わっている多くの人々がいることに、一層真宗の確かさを感じたことでした。

九月一日(八日目) 曇り ワルシャワ→ロシア

バスでシヨパン空港に向かうが、道は歩いていて予定より早く到着する。途中、空港で手荷物を預け、出国審査を経てロビーで出発時間を待つ間ショッピングを楽しむ。ト・ペテルブルグのプールのボオ空港に到着。ロシア入国審査窓口には大勢並び、のろい手続きに時間を取られました。時計を二時間早めて、ロシア時間に合わせました。



ピョートル大帝像 04, 9, 2

九月二日(九日目) 曇り サンクトペテルブルグ



イサク大聖堂 04, 9, 2

ネブスキー大通りをイサク聖堂、血の教会に向けて出発、約四・五キロの道のりに約一時間が掛かりました。道路工事も多く、割って大渋滞。信号を守らない車が多く、割



アンネの像 04. 9. 5 アムステルダム

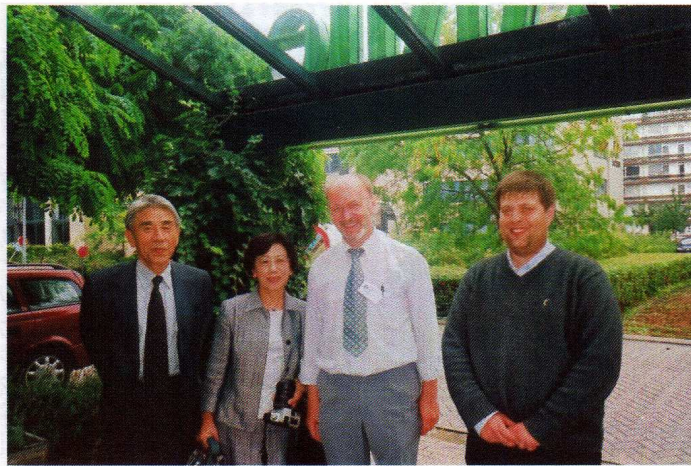
り込みも常習化していて、こんなところにも個人中心に変わり初めているのかと思いました。

世界三大美術館の一つであるエルミタージュ国立美術館は警備も 厳重で、長い列ができて人気の高さを知りました。約二百七十万点の一部を二時間で見てまわりましたが、ゆっくり鑑賞するのは贅沢というものでしょうか。

ロシアバレエ団の「白鳥の湖」は絶品でした。四羽の白鳥の踊り、オデットのソロ、全員のフィナーレ、一糸乱れのない踊りは見に来た甲斐がありました。

大地の念仏

伊東昌昭



真宗会議のあと 04. 8. 27

○ アウシュヴィツの顔

アウシュヴィツの空は 晴時々曇
強い日差しをよけて

六十年を生きたボプラの木陰
レンガ造りの頑丈な建物の影を
ゆっくり歩く

時間の予約をした 観光客の列がつづく
アジア系・スペイン系・スラブ系

やはり白人のツアーが圧倒的に多い
この中にドイツの人達がいたであろうか

一号館に入る

当時の虐待の写真がつづく

国家権力の軍服が

無抵抗の男・女・老人・子供を
いためつけている

骨と皮だけになった少年の顔があった

無表情な・無感情 顔

その顔の目頭に水晶玉のような一滴の涙
があった

山積みになされた人間の髪の毛が
展示してあった

死体からはぎとった毛で

セーターやくつ下をつくる

膨大な富を得たと・・・

収容者の名を記したカバンが
無造作に積んである

その中の小さなカバンは

両親を殺害された少年のもので
は？・・・

十号館と十一号館の間に
銃殺刑の跡があった
花束が密かに置かれてあった
思わず 念仏・合掌
十一号館に入れられた囚人は
死体でしか その館を出られない・・・
と
入口に入ったところに小さな裁判の部屋
がある
すべて死刑の判決がいわれたされた
と・・・

少し歩いたところにガス室があった
黒ずんだよごれた石の部屋
その部屋に立ったとき
スピルバーク監督の映画
「シンドラーのリスト」の全裸の人々の
無表情の顔が見えた
隣の部屋は火葬場であった
青空に出会ったとき
大きく深呼吸した
煙のでていないエントツが見えた
当時はどれほどの煙が
たちのぼったであろうか

有刺鉄線

収容所の生活に絶望し、高圧電流が流れる有刺鉄線に身を投げて自殺する人もいた。ナチスはこの収容所を「善意でユダヤ人を保護収容する場所」と外国に宣伝していた。



ビルケナウ(第二アウシュヴィッツ)
人間のいのちの終着駅の
荒廃した線路に立つ
百五十万人のいのちが運ばれた線路の上
に
事務室のような淋しい売店があった
絵ハガキを買おうとした
横にユダヤ教の僧がいた
店員と話しをした
店員はうなずいてハガキを渡してくれた
ホットした。

線路の側に 名を知らない小さな草花が
無数に咲いていた
どの花にも明るい清らかな顔があった
一瞬の安らぎを与えてくれた

バスに乗ろうとしたとき
線路の彼方から
「おじいちゃん！たすけて！」
と 幼い孫の声がした
顔は阿野少年の顔だった
ワルシャワの声

ワルシャワのホテルの一室
ポーランド人二十三名 日本人二十三名
正信偈の声が 厳かになりひびいた
胸がジーンとした
腹の底から感涙がこみあげた

八百年前の親鸞聖人の正信偈は 時代を
超え 民族を超えているとつくづく思う
正座して一心に正信偈を誦しておられ
るポーランドの方々の後姿を診ておると
なつかしく いとしい思いがおこる。

戦争の惨禍の傷あとは人々の心に
いたいたしく残っている
憎悪の心はどうすれば払いのけられるの
か
怨念の傷はどうすれば癒されるのか

「極重悪人唯称佛」

の文字が目に入る

おまえの心には被害者の悲痛な叫びしか

聞こえないのか

加害者の苦悩は 考えようもしないの

か

ガス室に子供達をつれていった兵士の心

髪のをはぎとつた兵士の苦悩

人体実験をした医者恐怖心

罪を犯した人間には

どれほどの苦悩が押しよせるのであろう

か

無量寿経の第十八願に「唯除五逆誹謗正

法」とある 聖人はこの御文を

「五逆のつみびとをきらい誹謗のおもき

とがをしらせんとなり この二つのつみ

のおもきことをしらしめて 十方一切の

衆生みなもれず往生すべしとしらせんと

なり」

と釈しておられる

仏は人間の罪の重さを知らせてくださっ

た

そして一切の衆生を

みなもれずたすけると

極重の悪人 罪悪深重の凡夫は

仏に助けていただくほかはない

人間の智慧や道徳ではたすかりようがな

い

アウシュヴィツの残酷な状況を見ながら

ナチスやヒトラーに憎悪の心を抱いた

評論家の私の心の底に 極重悪人の

鬼の姿を ひそかに見たような気がした

しかしすぐに消えた

極重の悪人よ ただ仏のみ名を称えよ

罪悪深重の凡夫をたすけんがための

如来の本願であると

聖人は教えてくださった

ポーランドの人々も ドイツの人々も

罪悪深重の凡夫のすくいに

耳を傾けて下さっているのであろう

正信偈が終った

念仏の声が再び堂内にひびいた

「南無阿弥陀仏」

シヨパンのピアノの旋律が

遠くに聞えた

IABC協賛

奈良市法蓮佐保町四一三

TEL 〇七四二・二三・二二一五番

河口博利

(株) 奈良公益社

IABC友の会 会誌 6号
目次

| | | | |
|-------------------|----|---------|----|
| IABCヨーロッパの旅 | 団長 | 高田慈昭 | 1 |
| 再度御縁を頂いて | | 榎並志女子 | 2 |
| 二回目の参加 | | 辻 貞子 | 4 |
| ヨーロッパ真宗会議に参加して | | 岡本本子 | 4 |
| 御縁の旅 | | 宮里優子 | 5 |
| ポーランドの三日間 | | 石牟禮 トシ子 | 6 |
| ポーランド | | 地引 露 | 8 |
| ポーランドを訪ねて | | 島田孝子 | 9 |
| ワルシャワとアウシュヴィツの想い出 | | 南荘 恵 | 11 |
| ヨーロッパ旅行を終えて | | 南荘 撰 | 12 |
| ヨーロッパ真宗会議と | | | |
| 文化遺産見学に参加して | | 井野盛夫 | 13 |
| 大地の念佛 | | 伊東昌昭 | 15 |
| みのり多い感銘深い旅 | | 島田和麿 | 18 |
| 日程表・参加者名簿 | | | 19 |
| アウシュヴィツの悪夢 | | | 20 |
| 後記 | | 島田 | 20 |

みのり多い 感銘深い旅

幹事 島田和麿



第6回 IABC友の会 アントワープ 04, 8, 26

第六回 IABC 友の会ツアーは 04 八月二十五日から九月六日までの十三日間、二十四名のグループでした。(添乗員も浄土真宗) ベルギー・アントワープでの第十三回

ヨーロッパ真宗会議に二日間参加、新門さまはじめ欧州念佛者との出会い、ポーランドはワルシャワ、クラコフ、アウシュヴィッツ、そしてロシアのサンクトペテルブルグ「エルミタージュ美術館」ほか、数多くの世界文化遺産の見学、オランダ・アムステルダムでは「アンネの家」「国立美術館」を訪れました。



藤谷成微副団長夫妻 ショパン生家の庭 04, 8, 28

ワルシャワ・ショパンの生家で 私たちのためにピアノ演奏「革命」「英雄ホロネーズ」と、その夜、宮殿での音楽大学教授の「ノクターン」「エチュード」などの生の演奏を聞いたこと、大きな感激でした。

なかならず、ヨーロッパ真宗会議での各国

の人々の発言、交流会、ワルシャワでのアグネス・エンジェスカ女史の浄土真宗のグループ二十四名との勤行と交流会は最も強い感銘を覚えたものでした。

会議中、ドイツ・モーザー氏のドイツ佛教会に浄土真宗会が加入できない問題の発言がありました。四諦・八正道・六波羅蜜の扱い方が問題点のようでした。わが教団でも現在「真俗二諦」論を活化する必要性があるかと考えさせられました。

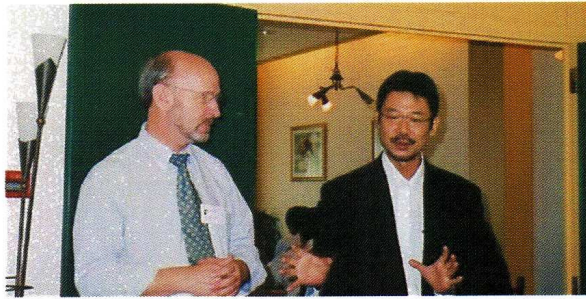
申しおくれましたが、

このたびのツアーにつき、新門さま、ペーブル博士、千葉乗隆理事長、佐々木恵精事務局長、随行長の徳永道雄先生、林国際部長、寺本知正先生、団長さまほか多くの先輩諸兄姉の御厚情のためでございます。

わが教団の中で、少しでもIABCの活動を理解し、それを弘めていただきたい、また、世界の価値あるものを見聞き各々の活動と人生に役立ててもらいたい、そういう目的ではじめました友の会ツアーも六回を経験しました。参加者百五十名を迎えました。このたびも無事、収穫多かつたことひとえにみなさまの御協力のおかげとここに深く御礼を申し上げます。なお今後とも御意見をお寄せ下さいませよう。

第七回の企画に入っております。

よろしくおねがい申し上げます。



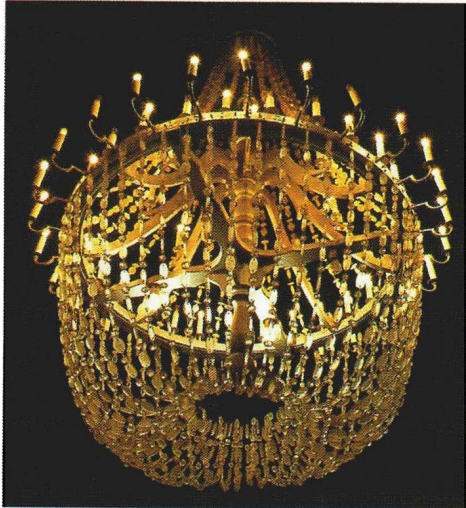
モニター役をつとめていただいた
寺本知正先生

第 6 回 IABC 友の会ツアー 参加者名簿

| No. | 名前 | 府県名 | 市郡名 | 住所 |
|-----|--------|------|------|------------------|
| 01 | 榎並志女子 | 大阪府 | 堺市 | 海山町 |
| 02 | 島田和磨 | 奈良県 | 奈良市 | 上三条町 浄教寺 |
| 03 | 島田孝子 | 奈良県 | 奈良市 | 上三条町 浄教寺 |
| 04 | 石牟礼トシ子 | 奈良県 | 奈良市 | 三条宮前町 |
| 05 | 辻 貞子 | 兵庫県 | 神戸市 | 北区山田町下谷上字五池谷 |
| 06 | 伊東昌昭 | 山口県 | 宇部市 | 東須恵 蓮光寺 |
| 07 | 伊東妙子 | 山口県 | 宇部市 | 東須恵 蓮光寺 |
| 08 | 宮里優子 | 兵庫県 | 神戸市 | 垂水区西舞子 真宗寺 |
| 09 | 藤谷成微 | 佐賀県 | 伊万里市 | 東山代町里 正福寺 |
| 10 | 藤谷妙美 | 佐賀県 | 伊万里市 | 東山代町里 正福寺 |
| 11 | 藤谷孝之 | 佐賀県 | 伊万里市 | 松浦町山形 光雲寺 |
| 12 | 川勝弘一 | 京都府 | 京都市 | 下京区東中筋通花屋町下ル |
| 13 | 南荘 恵 | 静岡県 | 静岡市 | 常磐町 教覚寺 |
| 14 | 山崎妙子 | 京都府 | 京都市 | 東山区大和大路通五条上ル 妙順寺 |
| 15 | 南荘 撰 | 京都府 | 京都市 | 中京区西ノ京職司町 教覚寺 |
| 16 | 井野盛夫 | 静岡県 | 静岡市 | 安東 2 |
| 17 | 高田慈昭 | 大阪府 | 大阪市 | 東住吉区駒川町 慈光寺 |
| 18 | 竹内昭英 | 福岡県 | 北九州市 | 八幡東区羽衣町 明遵寺 |
| 19 | 緒林桂子 | 大阪府 | 豊中市 | 蛍池東町 |
| 20 | 武井益栄 | 神奈川県 | 横浜市 | 港北区下田町 |
| 21 | 岡本本子 | 東京都 | 八王子市 | 寺田町 大恩寺 |
| 22 | 地引 露 | 奈良県 | 奈良市 | 学園朝日町 |
| 23 | 足利善彰 | 宮城県 | 仙台市 | 名坂町 善正寺 |
| 24 | 坂根淳子 | | 添乗員 | トラベル世界 |

ヨーロッパ真宗会議・アントワープ(ベルギー)・アウシュヴィッツ
世界文化遺産都市
ワルシャワ・クラコフ(ポーランド)・サンクトペテルブルク(ロシア)
見学13日間

| 日数 月日 曜日 | 国 | 都市 交通機関 | 日程 |
|------------------|-------|--------------------------------|---|
| 1 8/25 (水) | 日本 | 大阪 飛行機 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 朝、関西空港に集合。 ■ 午前、アムステルダムへ向かいます。 ■ アムステルダム着後、列車に乗り換え、アントワープへ向かいます。 ■ 着後、ホテルへ。〈アントワープ泊〉 |
| | ベルギー | アムステルダム 列車 アントワープ | |
| 2 8/26 (木) | | アントワープ滞在 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 午前、国際会議に参加。 ■ 午後、アントワープ市内観光。 〈アントワープ泊〉 |
| 3 8/27 (金) | オランダ | アントワープ 列車 アムステルダム 飛行機 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 午前、国際会議に参加。(自由参加) ■ 午後、列車にてアムステルダムへ。 ■ 夜、空路、ポーランドの首都、ワルシャワへ。 〈ワルシャワ泊〉 |
| | ポーランド | ワルシャワ | |
| 4 8/28 (土) | | ワルシャワ滞在 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 午前、ワルシャワ市内観光。午後、自由時間。 ■ ご希望の方は、別料金にてシヨパンの生家のあるジェラゾバ・ヴォーラへ 〈ワルシャワ泊〉 |
| 5 8/29 (日) | | ワルシャワ 列車 クラコフ | <ul style="list-style-type: none"> ■ 朝、列車(一等車)にてクラコフへ向かいます。 ■ クラコフ着後、市内観光へご案内します。 〈クラコフ泊〉 |
| 6 8/30 (月) | | クラコフ滞在 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 午前、ヴェリチカ地下塩坑跡の観光。 ■ 午後、オシビエンチム(アウシュビッツ)へ。 〈クラコフ泊〉 |
| 7 8/31 (火) | | クラコフ バス ワルシャワ | <ul style="list-style-type: none"> ■ 午前中、自由時間です。 ■ 午後、バスでワルシャワへ戻ります。 〈ワルシャワ泊〉 |
| 8 9/1 (水) | ロシア | ワルシャワ 飛行機 サンクト・ペテルブルク | <ul style="list-style-type: none"> ■ 午前、水の都サンクト・ペテルブルクへ。 ■ 夜、ご希望の方はオペラ等の観劇へ。 〈サンクト・ペテルブルク泊〉 |
| 9 9/2 (木) | | サンクト・ペテルブルク 滞在 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 午前、サンクト・ペテルブルク市内観光へ。 ■ 午前、エルミターージュ美術館へ。 ■ 夕食は、日本食。〈サンクト・ペテルブルク泊〉 |
| 10 9/3 (金) | | サンクト・ペテルブルク 滞在 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 午前、ピョートル大帝の離宮として有名な夏の宮殿へ。 ■ 午後、郊外にあるエカテリーナ宮殿へ。 〈サンクト・ペテルブルク泊〉 |
| 11 9/4 (土) | オランダ | サンクト・ペテルブルク 飛行機 アムステルダム | <ul style="list-style-type: none"> ■ 午前中、自由時間です。 ■ 夕刻、空路、アムステルダムへ。 ■ 夕食は、個室にて、さよならパーティー。 〈アムステルダム泊〉 |
| 12 9/5 (日) | 日本 | アムステルダム 飛行機 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 午前、アムステルダム市内観光。 ■ 午後、空路、帰国の途へ。 〈機中泊〉 |
| 13 9/6 (月) | | 大阪 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 朝、関西空港に到着。通関後、解散。 |

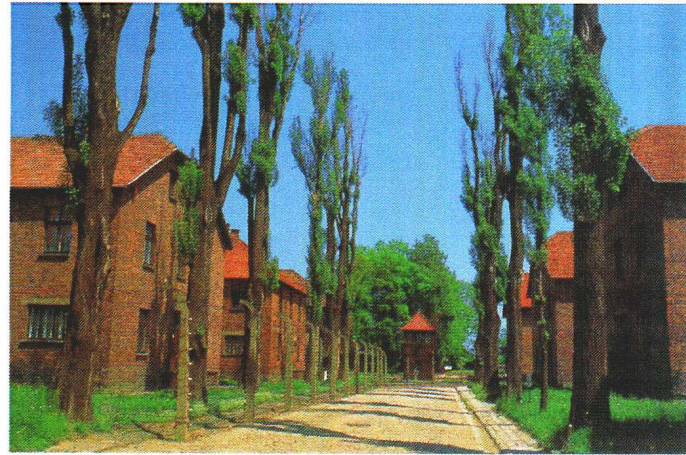


クリスタル芸術のごとく
塩の彫刻で飾られた地下世界
ヴェリチカ岩塩坑

ポーランド



▲塩の結晶で作られたシャンデリア。塩水に浸かっていた桶に付着した塩の結晶。地下80mにある「結晶の洞窟」では一辺が50cmもある結晶が発見された。鍾乳石のように柱状に結晶した岩塩など自然が造り出す芸術も見事。



収容棟 地下室と屋根裏のあるレンガ造りの収容棟は28棟あり、3列に分かれていた。被収容者数は全棟で1万3000～1万6000人。多いときには3万人近くが詰め込まれた。



収容所の門「働けば自由になれる」

地獄絵を呈した収容所
アウシュヴィッツの悪夢
家畜用貨物列車にすし詰めにされた人々が収容所に着くと、ナチス親衛隊員による「選別」が始まる。労働力にならない老人や妊婦、赤ん坊は、すぐさまガ

「ARBEIT MACHT FREI (働けば自由になれる)」の標語が残る。「ARBEIT」の「B」が上下逆なのは、看板を作った被収容者の抵抗の印といわれる。

ス室で殺された。子供は身長で「選別」され、120cmの高さに渡した棒の下をくぐった者はガス室へ。生き残るために、子供たちは必死で首を伸ばしたという。「選別」に残った人々は、男女とも丸坊主にされ、腕や太腿に登録番号を入れ墨されたのち、軍需工場や石切り場で1日12時間以上の労働を強いられた。暴力による虐待や陵辱は日常茶飯事。
トイレには紙もなく、収容所内は不衛生をきわめた。伝染病や栄養失調で衰弱した者は、餓死するかガス室へ送られるかしかなく、死体から抜き取られた金歯は延べ棒にされてドイツへ運ばれ、毛髪は繊維工場で布地の原料となった。
生体実験も頻繁に行われた。幼い子供にチフス菌を植えつけて反応をみる実験。ドイツ人以外を絶滅するための断種・不妊手術。双生児は遺伝学研究の格好の材料となり、大半の者は実験中に死んだ。

ソ連軍が迫ると、被収容者は監視兵に連れ去られ、口封じのために殺された。解放されたとき、収容所に残されていたのは、骨と皮だけになって動くこともできない、ほんのわずかな人々だけだった。

『世界遺産』講談社より抜粋



添乗の坂根さん

後記

大変おそくなりました。お詫びいたします。四班に分け、三日間ずつ誌していただきました。内容、順序はそのように配置しましたので、御了解の上、お読み下さい。
今号は幹事が手づくりでいたしました。団長に校正をお願いしました。変更可能ですので、ご希望をお寄せ下さい。会員諸兄姉には今後ともIABCを御支援下さいますようお願い申し上げます。
05 五月二十四日 島田

IABC友の会 会誌六号

発行 IABC友の会
(財団法人) 国際佛教文化協会 (略称IABC)
インターナショナル・アソシエイション
オブ・ブレイストカルチャー
名誉総裁 大谷光真御門主
理事長 千葉乗隆
事務局長 佐々木恵精

発行年月日 平成十七年六月一日
発行所 奈良市上三条町一八 淨教寺内
IABC友の会事務局
編集 島田和磨
(財・国際佛教文化協会理事)

〒 六三〇・八二二八
TEL 〇七四二・二二・三四八三
FAX 〇七四二・二二・三四九五
◎振替 〇〇九三〇・八・一〇六三二二